

令和6年4月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,905	9,257	4,650	4,607	△ 12	△ 7
2 千 石	4,166	6,874	3,442	3,432	11	△ 9
3 内 山	5,776	7,991	4,272	3,719	10	3
4 大 和	3,535	6,511	3,200	3,311	△ 68	△ 130
5 上 野	7,479	15,289	7,465	7,824	△ 53	△ 135
6 高 見	7,431	13,299	6,331	6,968	16	8
7 春 岡	7,119	11,044	5,843	5,201	55	27
8 田 代	11,303	21,782	10,446	11,336	△ 59	△ 143
9 東 山	10,263	18,824	9,167	9,657	△ 56	△ 157
10 見 付	4,481	8,278	4,160	4,118	△ 38	△ 81
11 星 ケ 丘	3,605	6,833	3,034	3,799	17	8
12 自 由 ケ 丘	3,553	7,132	3,237	3,895	8	△ 23
13 富 士 見 台	6,529	15,075	6,846	8,229	19	9
14 宮 根	3,823	7,978	3,684	4,294	21	5
15 千 代 田 橋	3,765	8,171	3,841	4,330	15	△ 16
千 種 区 計	88,733	164,338	79,618	84,720	△ 114	△ 641
R5. 4. 1	87,701	164,070	79,461	84,609	10	△ 617
対 前 年 比	1032	268	157	111	△ 124	△ 24
名 古 屋 市	1,162,340	2,322,143	1,139,129	1,183,014	3,059	△ 3,064
愛 知 県 (R6. 3. 1)	3,334,648	7,470,402	3,719,696	3,750,706	283	△ 4,525

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	65	154	△ 89	2,283	2,835	△ 552

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015		
平成7年	148,847	平成27年	164,696		
平成12年	148,537	令和2年	165,245	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)

注) 学区別の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果の本市独自集計速報値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

令和5年千種区の人口動向の概況

新年度となり、身の回りで転入・転出があった方も多いと思います。そこで今回は千種区の人口動向を考える上で重要な人口増減の内訳を見ていきたいと思います。

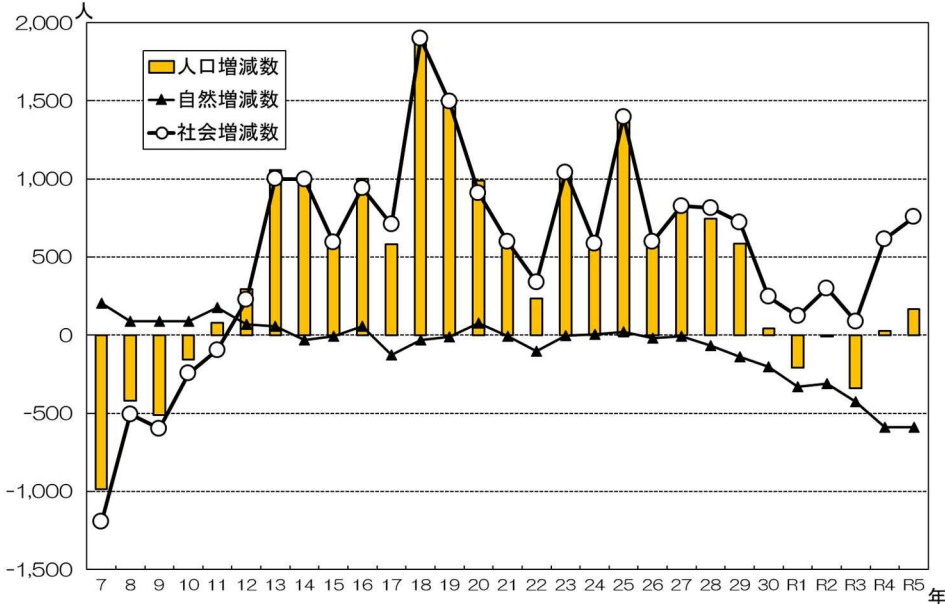


図1: 千種区の人口増減数、自然増減数および社会増減数の推移
(各年前年10月～当年9月)

令和5年10月現在の千種区の人口数は、前年同月比168人増加の165,101人となっており、名古屋市16区のうち4番目の人口規模です。図1の人口増減数を見てみると、千種区の人口は平成11年から平成30年まで増加傾向、令和1年から令和3年まで減少傾向となり、令和4年以降は、再び増加傾向です。一方、自然増減数(出生数－死亡数)は年々減少しており、令和5年は令和4年と同数の過去30年の中で一番多い589人の減少でした。

千種区の人口増減数の変化は

社会増減数の変化に大きく依存していると考えられます。そこで、社会増減数およびこれを左右する転入数・転出数について見ていきます。

令和4年10月から令和5年9月までの千種区社会増減数は757人の増加となっており(図2)、名古屋市16区の中で4番目(前年は7番目)となっています。社会増減数は平成12年以降転入超過を維持しています。

また、人口移動数(転入数+転出数)は27,307人で、中区に次いで16区中2番目(前年と同順)となっています。転入と転出が多い区となっています。

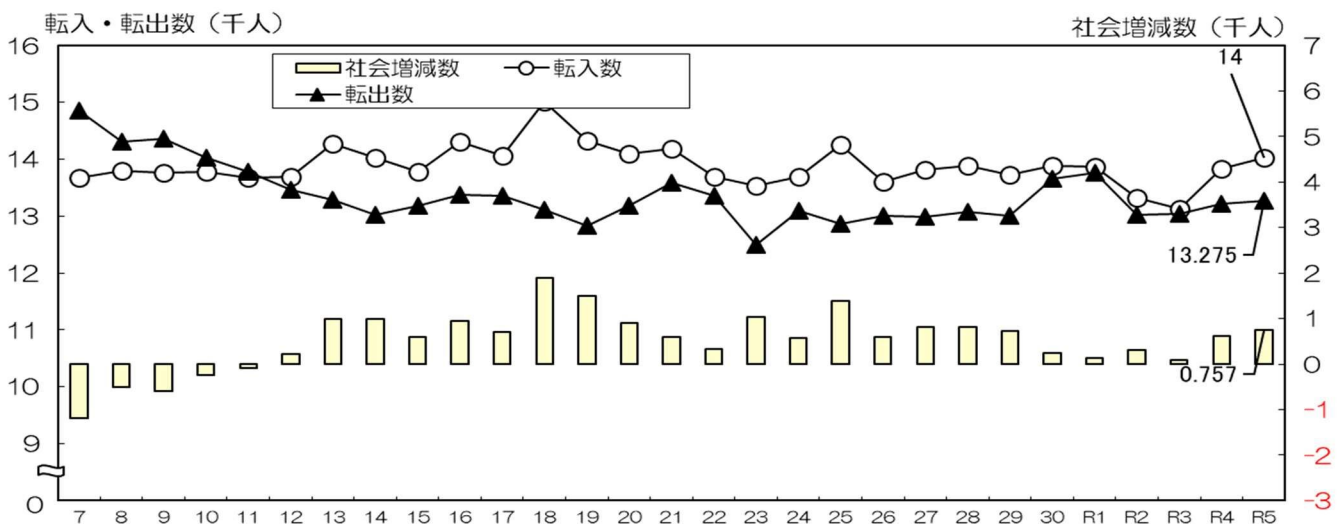


図2: 千種区の平成7年以降の社会増減数、転入数および転出数の推移(各年前年10月～当年9月)